

ティム・バートンが審査委員長を務めた第63回カンヌ国際映画祭で、タイ映画史上初のパルムドールに輝いた異色ファンタジー。死を目前にした主人公と“この世のものではない”者たちとの交流を、斬新なイメージーションでつづる。映像作家としてアート界でも高く評価されているアピチャップン・ウィーラセタクン監督作品。

タイ東北部のある村に、腎臓の病を患うブンミ（タナパット・サーイセイマー）、19年前に死んだブンミの妻の妹ジェン（ジェンチラー・ポンパス）とトン（サックダー・ケアウブアディー）がやってくる。ブンミは家で、使用人ジャーイの手伝いで腹膜透析をする。ブンミとジェン、トンが夕食を囲んでいると、ブンミの妻フェイ（ナッタカーン・アパイウォン）が現われる。さらに、数年前に行方不明になったブンミの息子ブンソンの声がある。ブンソンは森で撮影した写真に不思議な生物が写っているのを見つけ、それをつきとめるため森に入ってしまった。それは狼の精霊で、彼も猿の精霊となって妻をめとり、メコン川の北に移っていった。ブンミは妻と息子に、フェイの願いで養蜂場を作った農場や、フェイの葬式の写真を見せる。ブンミはジェンに、農場を継ぐよう頼む。農場暮らしの経験のないジェンは渋るが、ブンミは死んだ後も助けに来るから心配いらないと言う。翌日、ブンミはジェンを養蜂場に連れていく。ジェンは足を引きずっている。2人は小屋で休み、ブンミは腹膜透析をする。ブンミは自分の病気を、共産兵や農場の虫を殺したカルマだと言う。ジェンの父も共産兵を殺したが、人を狩りに行った森で動物を狩り、動物の言葉がわかるようになるまで森にいたが、幽霊にはならなかった。ブンミに最期のときが訪れる。ブンミはジェンに遺品を渡し、フェイ、ジェン、トンとともに森の洞窟に入る。ブンミは夢で見た未来の話をする。独裁者が支配する未来の都市では、過去の人々を消し去っていた。その話が終わると、ブンミは静かに目を閉じる。タイの風習にならって、トンは僧門に入る。ブンミの葬式の夜、寺で眠っていたトンは不思議な音を聞く。怖くなったトンは街のホテルにいるジェンとルンを訪ねる。トンは普段着に着替え、ジェンを食事に誘う。部屋を出ようとしたトンが振り返ると、ベッドの上に3人で横になり、テレビを見ている自分たちが見えた。

作品データ

原題 UNCLE BOONMEE WHO CAN RECALL HIS PAST LIVES

製作年 2010年

製作国 イギリス=タイ=フランス=ドイツ=スペイン

上映時間 114分

スタッフ

監督 アピチャップン・ウィーラセタクン

脚本 アピチャップン・ウィーラセタクン

編集 リー・チャータメーティクン

撮影監督 サヨムプー・ムックディープロム

キャスト

ブンミ タナパット・サーイセイマー

ジェン ジェンチラー・ポンパス

トン サックダー・ケアウブアディー

フェイ ナッタカーン・アパイウォン